

2026年3月期 第2四半期 決算ハイライト

ティアック株式会社
<https://www.teac.co.jp/jp/>
証券コード：6803

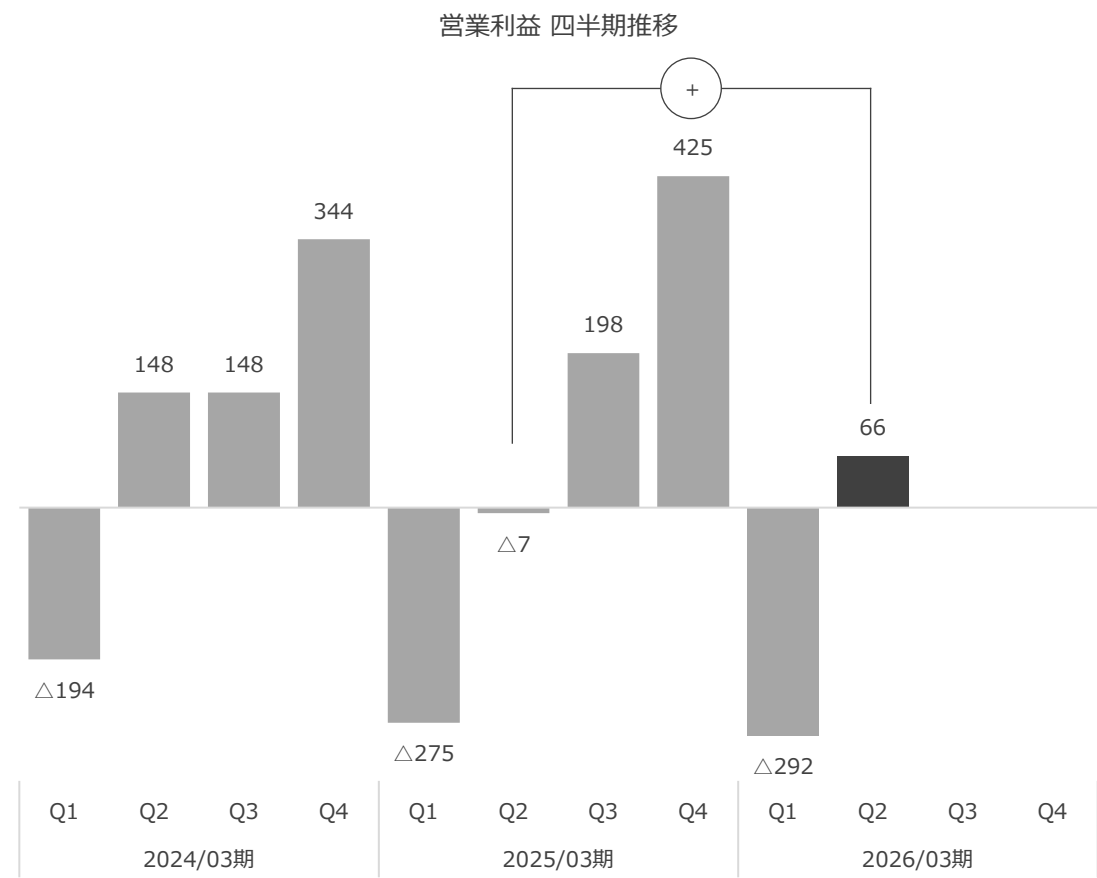
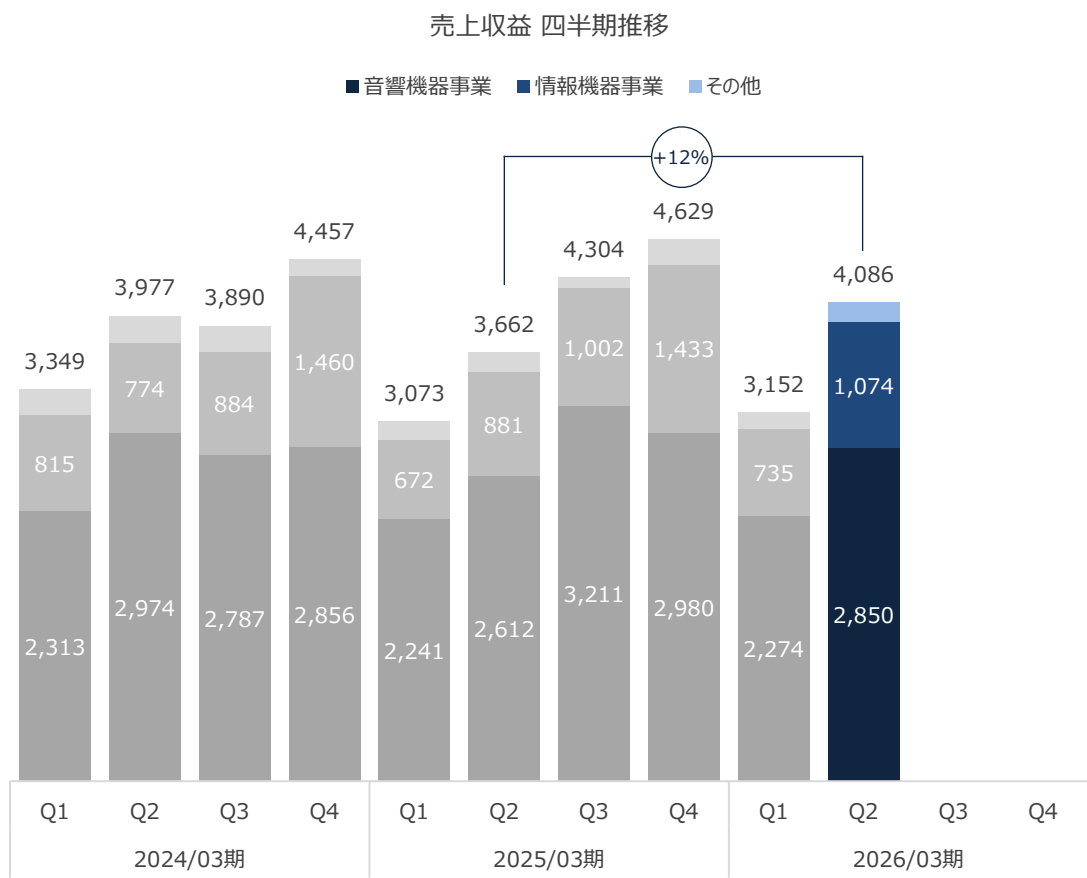
2025年11月7日

■ 2026/03期 第2四半期累計は前年同期比増収増益（赤字縮小）

	2025/03期			2026/03期	前年同期比	
	Q2累計	Q1	Q2	Q2累計		(百万円)
売上収益	6,736	3,152	4,086	7,238	+ 503 (+ 7.5%)	・ 音響機器事業・情報機器事業ともに前年同期比増収
営業利益（△損失）	△ 282	△ 292	66	△ 226	+ 56 (-)	・ Q2に構造改革費用58百万円を計上し尚、前年同期比増益（赤字縮小） － 詳細は「 構造改革費用（個別開示項目）の計上（国際会計基準）に関するお知らせ 」（2025年11月7日発表）をご参照ください
税引前利益（△損失）	△ 361	△ 280	39	△ 241	+ 120 (-)	・ 前年同期比増益（赤字縮小）
四半期利益（△損失）	△ 344	△ 264	62	△ 202	+ 143 (-)	・ 前年同期比増益（赤字縮小）
資本合計	2,984			3,329	+ 345 (+ 11.6%)	・ 前年同期比増
1株当たり親会社 所有者帰属持分	103.59円			115.58円	+ 11.99円 (+ 11.6%)	・ 前年同期比増
自己資本比率	26.2%			30.5%	+ 4.3ppt	・ 前年同期比増
フリー キャッシュフロー	19			△ 117	△ 137	・ 前年同期比減

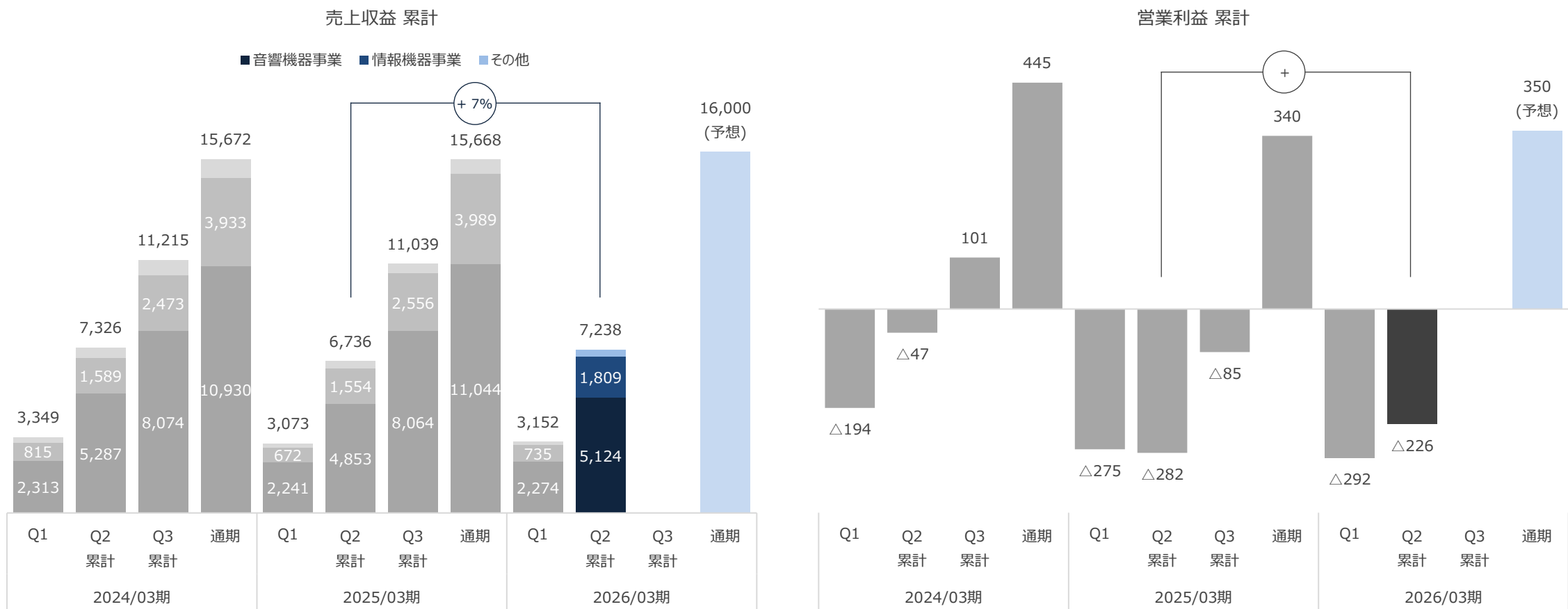
2026/03期 Q2単独 セグメント別業績

- Q2単独（7月-9月）売上収益は音響機器事業・情報機器事業ともに伸長し、前年同期比12%の増収
- 同営業利益は、構造改革費用58百万円の計上による押し下げを吸収のうえ黒字転換、前年同期比増益



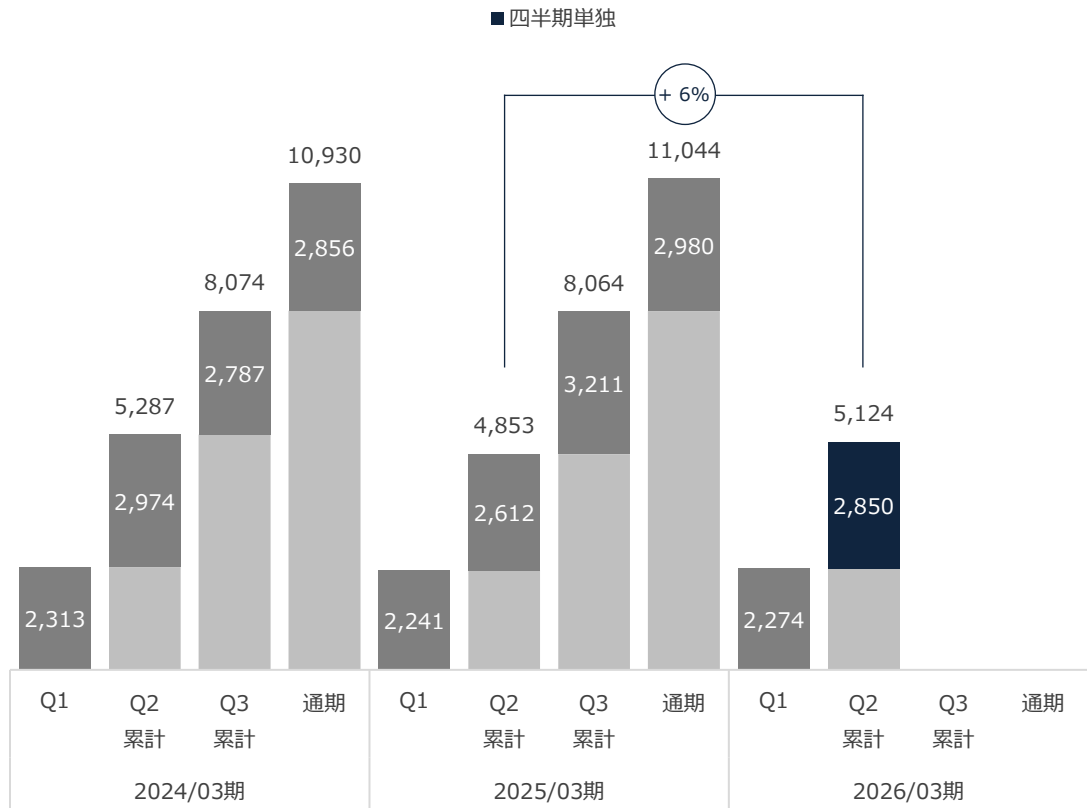
2026/03期 Q2累計 セグメント別業績

- Q2累計（4月-9月）売上収益は音響機器事業・情報機器事業ともに伸長し、前年同期比7%の増収
- 累計営業利益は、Q2の黒字転換に伴い、前年同期比増益（赤字縮小）

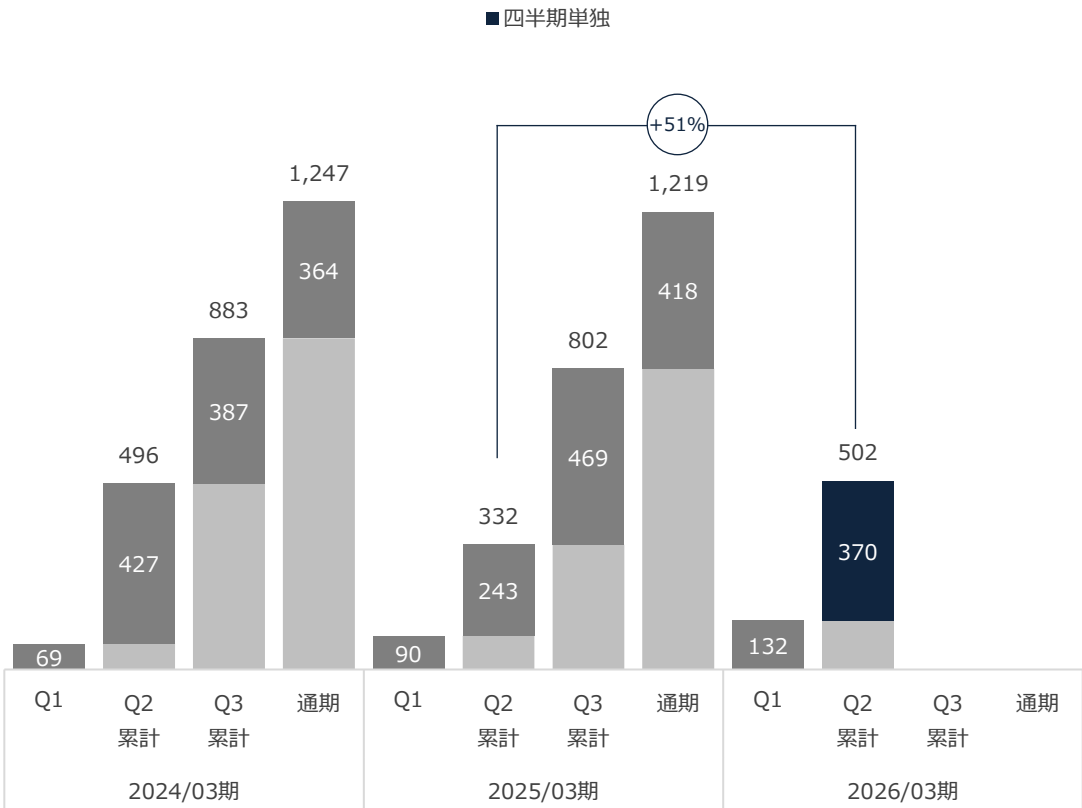


- プレミアムオーディオ機器（ESOTERIC、TEAC）は、欧米市場にて好調継続の反面、国内ではネットワークプレーヤー以外の高額品が低迷、減収
- 音楽制作・業務用オーディオ機器（TASCAM）は、安定した設備機器需要によりBtoB事業が好調。米国においても現地販売子会社にて予め前倒し仕入を進めていたこと、新規入荷分について価格転嫁を進めたこと等から通商政策による大きな影響は無く、増収

音響機器事業 売上収益 累計

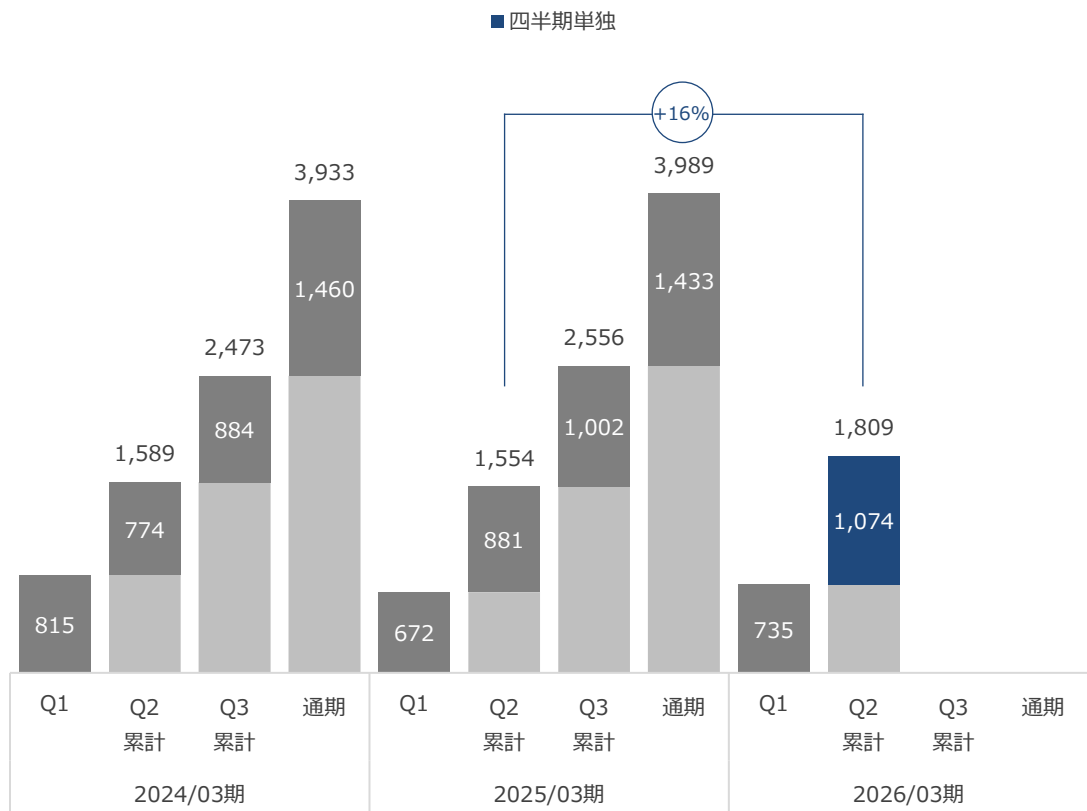


音響機器事業 セグメント利益 累計

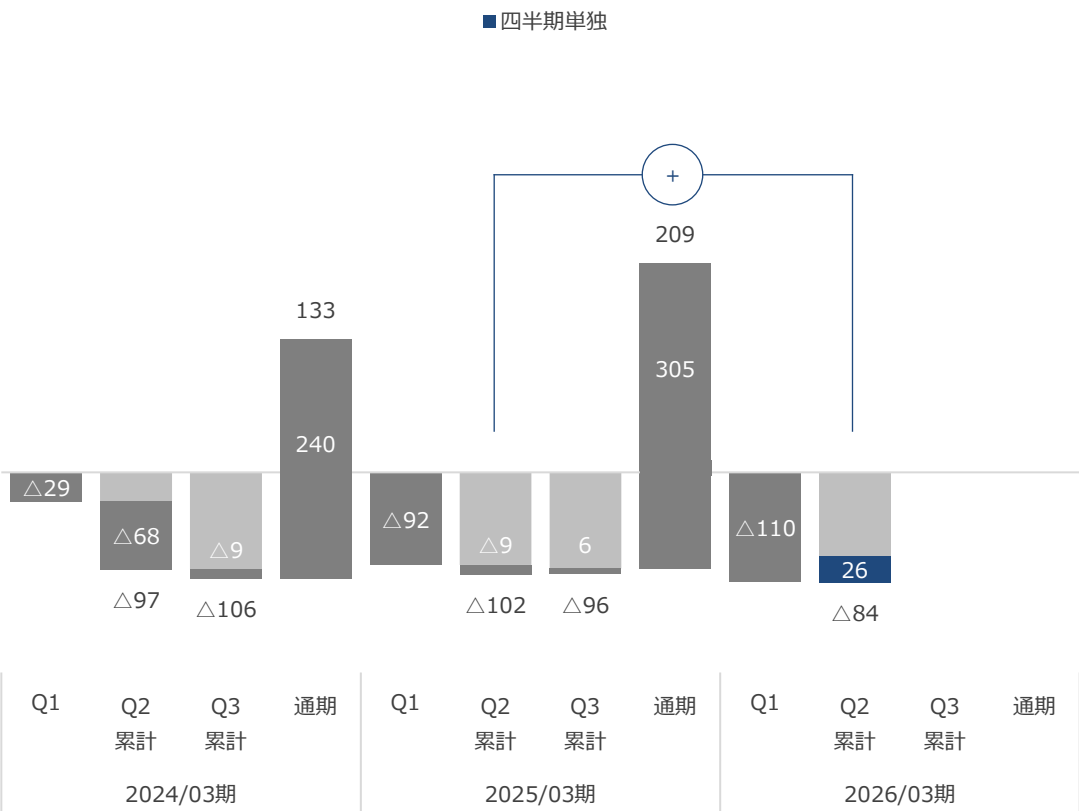


- 計測機器は、データレコーダーは新製品の需要喚起に、またトランスデューサーも十分な需要回復に、それぞれが時間を要しており、減収
- 医用画像記録再生機器は、立ち上がりが遅れていた欧州市場においても4Kレコーダーが拡大基調に転じ、増収
- 機内エンターテインメント機器は、依然納入が小規模エアラインに留まる中、船舶業界向けストック収益モデルが寄与し、増収

情報機器事業 売上収益 累計



情報機器事業 セグメント利益 累計

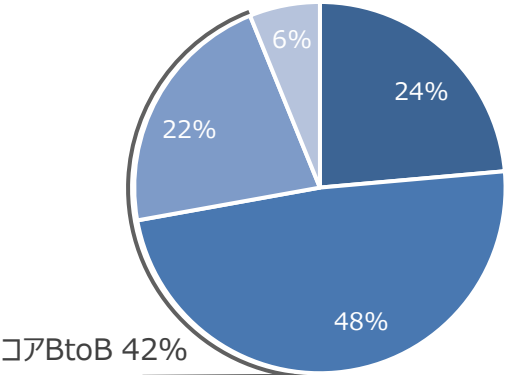


2026/03期 Q2累計 セグメント別・地域別構成比

- BtoB事業は前年同期比18%増収。業務用オーディオ機器および情報機器事業における医用画像記録再生機器とソリューションビジネスが好調に推移し、BtoB比率は50%まで伸長
- 微減のアジアを除く全地域にて前年同期比増収の結果、構成比に大きな変動無し

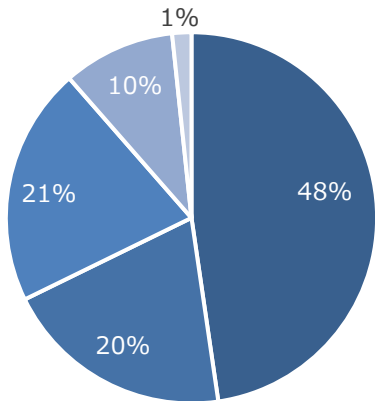
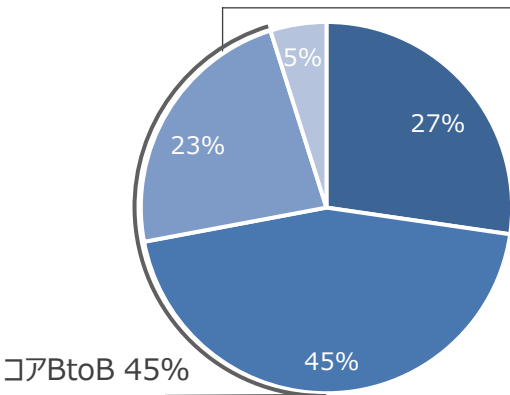
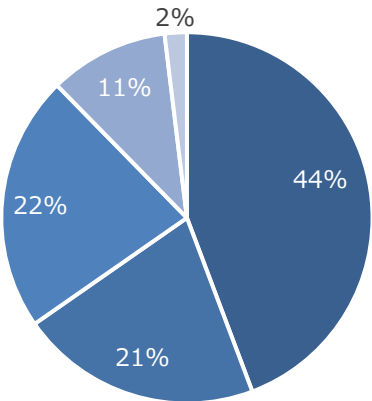
2024/03期 Q2累計 売上収益
7,326百万円

セグメント別

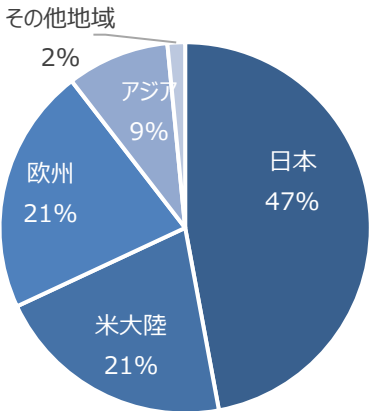
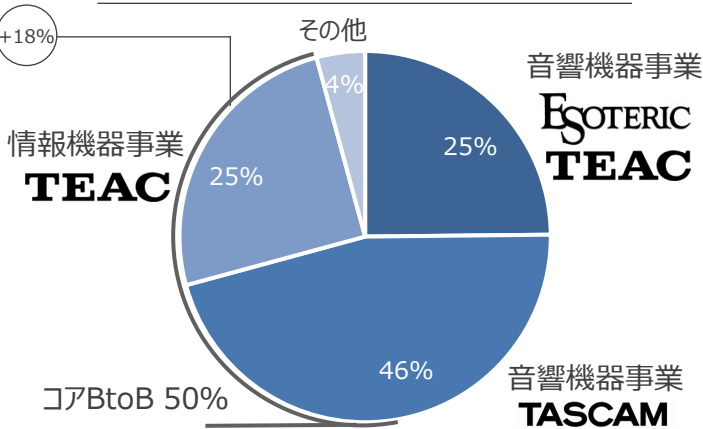


2025/03期 Q2累計 売上収益
6,736百万円

地域別

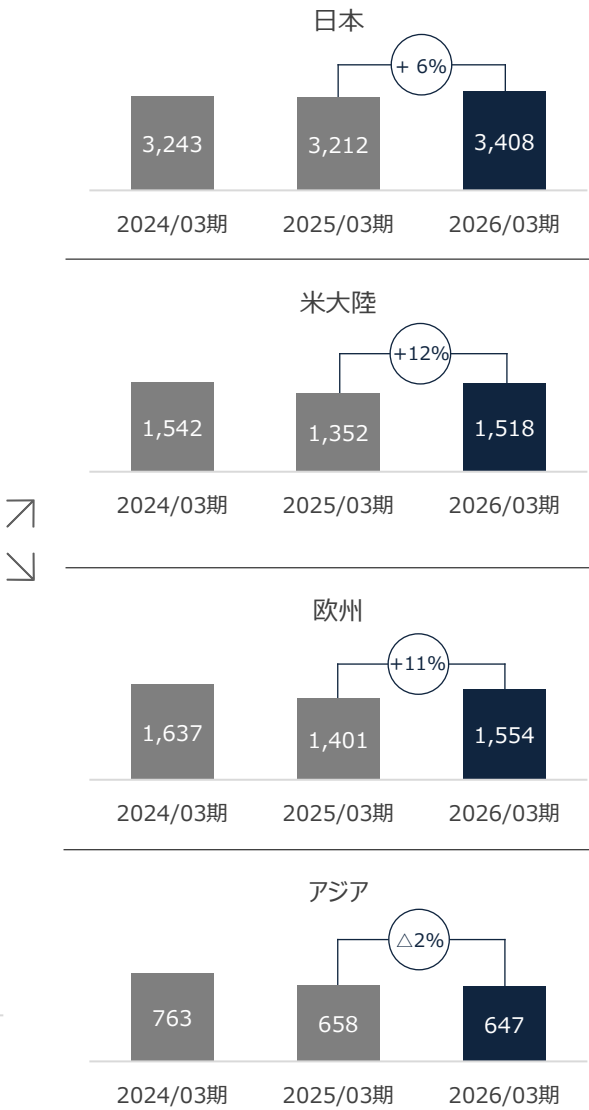
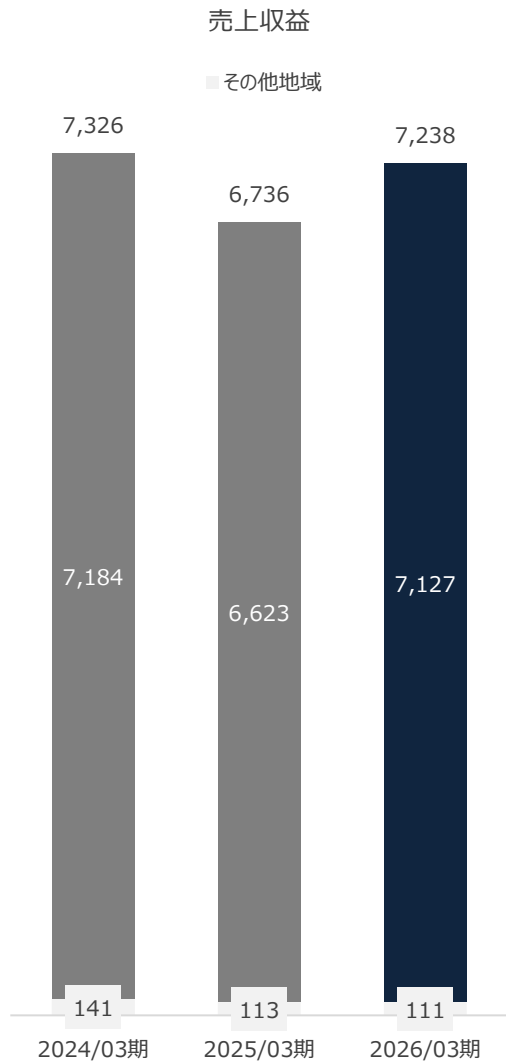


2026/03期 Q2累計 売上収益
7,238百万円



2026/03期 Q2累計 地域別業績

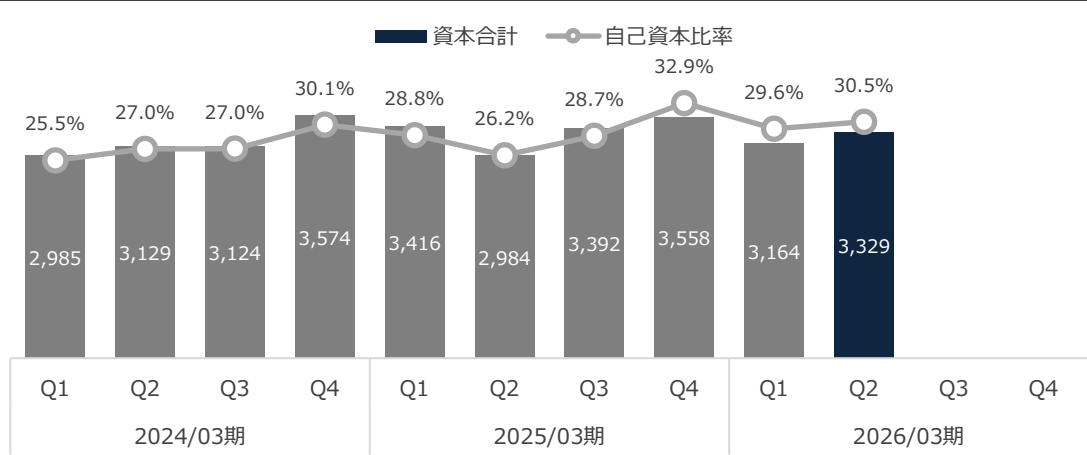
(百万円、+は前年同期比増収、△は同減収)



- 音響機器事業
 - + 業務用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoB)、音楽制作用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoC)
 - △ プレミアムオーディオ機器
- 情報機器事業
 - + 医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器、ソリューションビジネス
 - △ 計測機器
- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoB)、音楽制作用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoC)
 - △
- 情報機器事業
 - + 機内エンターテインメント機器
 - △ 計測機器、医用画像記録再生機器
- 音響機器事業
 - + プレミアムオーディオ機器、業務用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoB)
 - △ 音楽制作用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoC)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器
 - △
- 音響機器事業
 - + 業務用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoB)
 - △ プレミアムオーディオ機器、音楽制作用オーディオ機器 (TASCAM_ BtoC)
- 情報機器事業
 - + 計測機器、医用画像記録再生機器、機内エンターテインメント機器
 - △

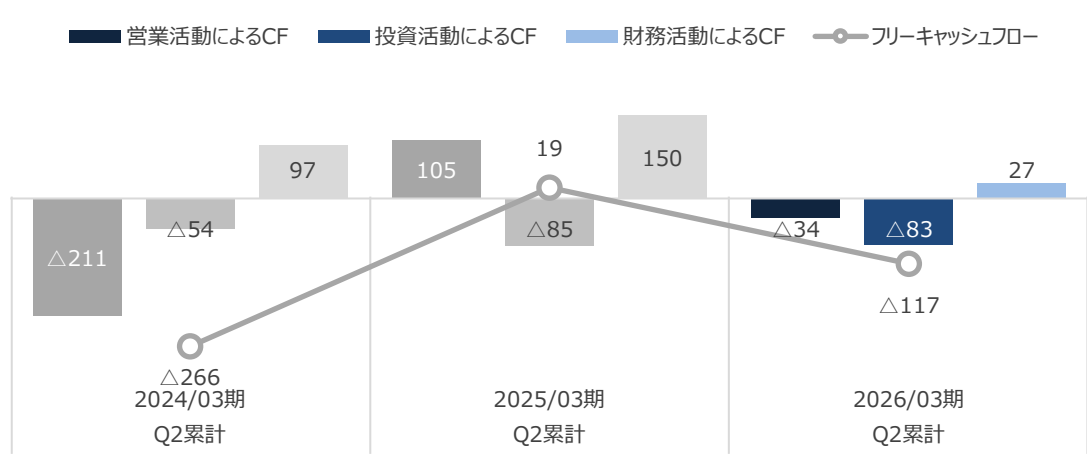
(百万円)

自己資本比率



- 資本合計：前年同期比+ 345百万円（+ 11.6%）増、前期末比△ 229百万円（△ 6.4%）減
- 自己資本比率：前年同期比+ 4.3ppt増、前期末比△ 2.4ppt減

フリーキャッシュフロー



- フリーキャッシュフロー：前年同期比△ 137百万円減の△ 117百万円。営業キャッシュフローは前年同期比△ 139百万円減の△ 34百万円

■ 2026/03期は、収益悪化リスクを織り込んだ上で前年同期比増収増益を見込む

	2025/03期	2026/03期 予想	前年同期比	(百万円)
売上収益	15,668	16,000	+ 332 (+ 2.1%)	・ インフレや金融市場の混乱、地政学的リスク等存在するが、比較優位性を持つ製品の適宜価格改定と併せ、更なる戦略製品の導入と事業領域の拡大により増収を計画
営業利益	340	350	+ 10 (+ 2.9%)	・ 米国における通商政策のマイナス影響は現時点で想定される範囲内で織り込み済み
税引前利益	59	150	+ 91 (+ 152.9%)	・ 増益計画
当期利益	81	100	+ 19 (+ 23.3%)	・ 増益計画
資本合計	3,558	-	-	
1株当たり親会社 所有者帰属持分	123.51円	-	-	
自己資本比率	32.9%	-	-	
フリー キャッシュフロー	1,064	-	-	

■ 音響機器事業 プレミアムオーディオ機器

- 音元出版主催の「オーディオ銘機賞 2026」において、TEACブランド、ESOTERICブランドの製品が各賞を受賞

ESOTERIC

ネットワークプレーヤー/DAC『Grandioso N1』が金賞、
ネットワークトランスポート『Grandioso N1T』がハイエンド大賞を受賞しました



金賞 Gold Prize



ネットワークプレーヤー/DAC
『Grandioso N1』



ハイエンド大賞
High-End Class Grand Prize



ネットワークトランスポート
『Grandioso N1T』

TEAC

ネットワークトランスポート『NT-507T』がネットオーディオ大賞、CDトランスポート
『PD-507T』が銅賞、ステレオパワーアンプ『AP-507』が銘機賞を受賞しました



ネットオーディオ大賞
NET AUDIO SPECIAL PRIZE

ネットワークトランスポート
『NT-507T』



銅賞 Bronze Prize

CDトランスポート
『PD-507T』



ステレオパワーアンプ
『AP-507』



■ 音響機器事業 音楽制作・業務用オーディオ機器

- 32ビットフロート&特許技術採用のHDMIカメラ同期で収録・編集を効率化。4chフィールドレコーダー/ミキサー/タイムコードジェネレーター『FR-AV4』を新発売

『FR-AV4』は、ビデオグラファー、クリエイター、サウンドデザイナーのための音声収録ソリューションです

4系統の超低ノイズUltra HDDAマイクプリアンプ、デュアルADコンバーターと32ビットフロート録音により、ささやき声から爆音まで、あらゆる音をクリアかつ歪みなく収音します。コンパクトで堅牢なボディは可搬性にすぐれ、レコーディングバッグやリグに容易に組み込めます。また、電池交換は、専用のバッテリーホルダー『BH-4AA』により素早く、簡単に行えます。更には、タイムコードジェネレーターとHDMI Sync機能を搭載し、音声と映像の同期作業を効率化。『FR-AV4』は、録り逃せない瞬間を確実に捉え、映像制作ワークフローを飛躍的に改善します



FR-AV4

32ビットフロート録音・HDMI Sync対応
4chフィールドレコーダー/ミキサー/タイムコードジェネレーター

- 「ニコン ZR」対応XLRマイクアダプター『CA-XLR2d-N』を発売。デジタルアクセサリシュー経由でのデジタル音声伝送を協業にて実現

株式会社ニコンとの協業によりミラーレスカメラ対応XLRマイクアダプター『CA-XLR2d』シリーズの追加モデルとして、「ニコン ZR」とデジタルアクセサリシュー経由でのデジタル音声伝送に対応するニコンキット『CA-XLR2d-N』を発売開始しました

『CA-XLR2d-N』を「ニコン ZR」に装着することで、XLR入力を拡張し、高品質な業務用XLRマイクで収録した音声をカメラの動画に直接記録することが可能となります。XLR入力には、高性能HDDAマイクプリアンプを搭載し、高音質・低ノイズ・広いダイナミックレンジを実現します。また、高性能ADコンバーターにより、劣化のないデジタル音声をカメラにダイレクト伝送することが可能です。更には、対応アクセサリシューを介してカメラから電源供給を受けられるため、撮影時の電源マネージメントを簡潔化。本機は、映像と音声の同時収録向けソリューションとして、映像制作ワークフローを飛躍的に改善します



CA-XLR2d-N

ミラーレス/DSLRカメラ対応XLRマイクアダプター | ニコンキット

■ 情報機器事業 計測機器・医用画像記録再生機器

- ・ 2025年7月に「第7回計測・検査・センサ展」及び「国際モダンホスピタルショー2025」に出展

幕張メッセで開催された「第37回ものづくりワールド東京」内の「第7回計測・検査・センサ展」に出展し、前期末に上市した新製品『WX-9000』を加えたデータレコーダーのラインナップの他、デジタル指示計、シグナルコンディショナー、ロードセル等を紹介しました。半導体、自動車、産業機器分野など幅広い業界からの技術者・購買担当者から高い関心を集め、多くの訪問がありました

また、東京ビッグサイトにて開催された、病院・医療・福祉分野の最新技術が一堂に会する展示会「国際モダンホスピタルショー2025」にも出展し、レコーダー及び手術映像システムによる映像ソリューションを展示、医療情報・映像システム分野に関心を持つ訪問者で賑わいました



「第7回計測・検査・センサ展」



「国際モダンホスピタルショー2025」

財務データシート（IFRS）

		2024/03期					2025/03期					2026/03期				
		(百万円)					Q1	Q2	Q3	Q4		Q1	Q2	Q3	Q4	
貸借対照表	流動資産		9,027	8,930	8,969	9,286		9,302	8,914	9,414	8,568		8,515	8,691		
	現金及び現金同等物		1,553	1,086	1,369	1,227		1,487	1,347	1,291	1,552		1,854	1,464		
	営業債権及びその他の債権		2,671	2,938	2,603	3,517		2,480	2,433	2,903	3,108		2,334	2,855		
	棚卸資産		4,512	4,638	4,662	4,214		5,082	4,925	4,957	3,661		4,134	4,157		
	その他の流動資産		291	269	336	328		254	209	263	248		193	215		
	非流動資産		2,673	2,663	2,593	2,585		2,571	2,490	2,416	2,246		2,181	2,223		
	資産合計		11,700	11,594	11,562	11,871		11,874	11,404	11,831	10,815		10,696	10,914		
	流動負債		6,242	6,018	6,249	5,434		6,051	6,265	6,482	5,557		6,010	6,248		
	社債及び借入金		2,749	2,663	2,965	2,110		2,882	2,985	3,300	2,565		2,823	3,073		
	リース負債		519	357	359	367		389	380	386	373		349	346		
	営業債務及びその他の債務		1,615	1,566	1,571	1,504		1,476	1,412	1,311	1,024		1,425	1,336		
	その他の流動負債		1,358	1,432	1,354	1,454		1,304	1,488	1,485	1,596		1,413	1,493		
	非流動負債		2,474	2,446	2,189	2,862		2,406	2,155	1,957	1,700		1,522	1,337		
	社債及び借入金		977	829	690	1,478		1,142	1,007	926	797		714	579		
	リース負債		790	913	849	792		710	634	555	477		423	402		
	長期未払金		622	626	573	511		472	428	386	336		303	270		
	その他の非流動負債		86	79	78	81		82	86	90	91		82	85		
	負債合計		8,715	8,465	8,439	8,297		8,458	8,421	8,439	7,257		7,532	7,585		
	資本合計		2,985	3,129	3,124	3,574		3,416	2,984	3,392	3,558		3,164	3,329		
	親会社の所有者に帰属する持分合計		2,985	3,129	3,124	3,574		3,416	2,984	3,392	3,558		3,164	3,329		
	非支配持分		0	0	0	0		0	0	0	0		0	0		
	負債及び資本合計		11,700	11,594	11,562	11,871		11,874	11,404	11,831	10,815		10,696	10,914		
	親会社所有者帰属持分比率		25.5%	27.0%	27.0%	30.1%		28.8%	26.2%	28.7%	32.9%		29.6%	30.5%		
損益計算書	売上収益		3,349	3,977	3,890	4,457	15,672	3,073	3,662	4,304	4,629	15,668	3,152	4,086		7,238
	音響機器事業		2,313	2,974	2,787	2,856	10,930	2,241	2,612	3,211	2,980	11,044	2,274	2,850		5,124
	情報機器事業		815	774	884	1,460	3,933	672	881	1,002	1,433	3,989	735	1,074		1,809
	その他		221	229	218	141	809	160	169	90	216	635	144	162		306
	セグメント利益		75	385	384	584	1,427	13	251	455	731	1,450	11	385		396
	音響機器事業		69	427	387	364	1,247	90	243	469	418	1,219	132	370		502
	情報機器事業		△ 29	△ 68	△ 9	240	133	△ 92	△ 9	6	305	209	△ 110	26		△ 84
	その他		35	26	6	△ 20	47	16	17	△ 20	8	21	△ 11	△ 12		△ 23
	個別開示項目前営業利益		△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	198	425	340	△ 292	124		△ 168
	個別開示項目		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 58		△ 58
	営業利益		△ 194	148	148	344	445	△ 275	△ 7	198	425	340	△ 292	66		△ 226
	税引前利益		△ 389	32	179	183	5	△ 398	37	18	402	59	△ 280	39		△ 241
	親会社の所有者に帰属する当期利益		△ 400	32	181	134	△ 53	△ 393	49	13	412	81	△ 264	62		△ 202
	キャッシュフロー	営業活動によるキャッシュフロー		△ 113	△ 98	239	88	116	0	104	△ 226	1,300	1,178	312	△ 347	
	投資活動によるキャッシュフロー		△ 36	△ 18	△ 17	△ 34	△ 106	△ 54	△ 31	△ 20	△ 9	△ 115	△ 24	△ 59		△ 83
	財務活動によるキャッシュフロー		446	△ 349	90	△ 256	△ 69	284	△ 134	124	△ 980	△ 706	9	18		27
	フリーキャッシュフロー		△ 149	△ 116	222	54	10	△ 54	73	△ 247	1,291	1,064	288	△ 405		△ 117

この資料に記載されている記述のうち、将来見通しに関する記述は、当社の現時点での入手可能な情報に基づいている為、既知または未知のリスクおよびその他の不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しと大幅に異なる可能性があります。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、主要市場（日本、北米、欧州、アジアなど）の経済状況・需要動向、同市場における貿易規制等各種規制、ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、部品・原材料の供給、物流網の安定性、急激な技術変化、などがありますが、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。